

核をめぐる過去、現在と未来

戦争と核兵器を廃絶する道筋を考えよう!

2026年

11/15日

13:30~15:30

場所 広島国際会議場 グリア

(広島市中区中島町1番5号 地下2階)

どなたでもご参加いただけます。

当日直接会場にお越しください。

参加無料
 申込不要
 定員120名

ウクライナやガザ地区における武力紛争、そして混迷するイラン情勢は、国際関係の不確実性を高めており、日常生活にも大きな影響が出ています。これらの紛争には核保有国が関与しており、核兵器の存在が国際社会に暗い影を落としています。

本公開講座では、2025年末に本学国際学部が刊行した書籍の執筆者のうち2名が、国際政治と国際法の視点から、核兵器と戦争をめぐる現在の情勢をとらえ、今後の世界を展望します。

講師



「核保有国による戦争と国際政治」

秦野貴光(国際安全保障論、国際政治理論)
 広島市立大学国際学部講師

ウクライナ、ガザ地区、そしてイランをめぐる情勢は、さまざまな核問題と結びついています。これらの紛争の背景を踏まえたうえで、核兵器の保有が保有国自身の行動に与える影響や、核保有国による武力行使が非核保有国の安全保障認識や政策にもたらす変化など、核保有国による戦争が提起する諸論点について検討します。



「わたしたちは戦争をなくせるか? ~Hiroshimaから平和を考える~」

太田育子(国際法、国際人権法)
 広島市立大学国際学部教授

いま世界は、核保有国のあからさまな国際法違反の武力攻撃により、「法の支配」からサディスティックな「力による支配」へ移行しつつあります。今年5月にNPT(核不拡散条約)再検討会議が三度目の決裂に至り、核不拡散レジームの崩壊さえも現実味を帯びてきました。ダイナマイト、核兵器に続く第三の軍事革命「AI兵器」の開発・使用も加速しています。暴力に浸食される世界に平和を取り戻すため、Hiroshima市民であるわたしたちにできることはなにか、一緒に考えてみましょう。



広島市立大学国際学部シリーズ書籍15巻『原爆80年』(人文書院 2025年末刊行)

歴史学、社会学、メディア論、国際関係論など多彩な視点から「被爆と核」の過去・現在・未来を徹底検証し、被爆地の内側から、そして外側からの視線によって、これまで自明とされてきた記憶を問い直した。
 金栄鎬・井上泰浩編著、全10章。

高齢者いきいき活動ポイント対象事業です。

この公開講座は、国際フェスタ2026の事業として開催します。
 国際フェスタ2026の詳細についてはこちら



主催：公益財団法人広島平和文化センター 共催：独立行政法人国際協力機構(JICA)中国センター、広島市